

平成23年度

## 目黒区学力調査と改訂授業改善プラン

I 「目黒区学力調査」の概要

II 「目黒区学力調査」等に基づく授業改善プラン

- ・全体構想

- ・第1学年～第3学年

平成23年7月

目黒区立第三中学校

# I 「目黒区学力調査」の概要

## 1 調査の趣旨

目黒区立小・中学校の児童・生徒に「学力調査」を実施し、児童・生徒の学習状況を組織的・継続的に調査・分析するとともに、各学校の指導法やカリキュラムの改善・充実を図り、学力の定着・向上を目指す。

なお、本調査は、目黒区立小学校の第2学年～第6学年の児童及び目黒区立中学校の全学年生徒を対象に実施された。

## 2 調査の内容

### (1) 調査の対象学年及び対象生徒数（本校）

	1 年	2 年	3 年
対象数	56人	58人	46人
実施数	55人	57人	43人
受検率	98%	98%	93%

### (2) 調査内容と実施教科

① 学習指導要領に示された目標の達成状況（観点別学習状況）

② 生徒の学習に関する意識

1年 意識調査、国語、数学、社会、理科

2年 意識調査、国語、数学、英語、社会、理科

3年 意識調査、国語、数学、英語、社会、理科

### (3) 実施日

平成23年4月12日（火）

## II 目黒区学力調査等に基づく授業改善プラン

### 学校教育目標

人間尊重の精神を基調とし、常に向上心に満ちた生徒を育成する。

- ・健康で明るい人になろう。
- ・思いやりのある人になろう。
- ・進んで学ぶ人になろう。
- ・自ら考え、行動できる人になろう。



### 教育課程届における指導の重点

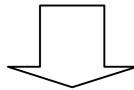
- (1) 新学習指導要領をふまえ、二期制の趣旨を生かした指導計画を作成し、指導と評価の一体化や指導方法、指導形態を工夫し、基礎的・基本的な内容の定着と学力の向上を図る。体験的な学習や問題解決的な学習を重視し、自主的・自発的な学習を促す。
- (2) 区の学力調査の結果等をもとに授業改善プランを作成し、五教科については放課後学習教室等を利用し、日常的にきめ細かな補習を行う。
- (3) 五教科について、夏季休業中に全校体制で5日間の補習教室を実施する。夏季休業明けの5日間を活用して三教科の学習確認テストを実施し、学習意欲の向上を図る。
- (4) 選択教科を学校選択とし、基礎・基本の学力の定着を図る。



### 本校の学力向上に向けた視点 (学校全体)

指導方法等の工夫	教育課程編成上の工夫	校内研修・研究の工夫	評価の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<p>・学習の基盤である「ことば」の力をつけるよう、読書活動の推進をはじめ、すべての教科で「聴く・伝える・考える」といった言語活動を意識的に行う。</p> <p>・楽しく分かる授業に努め、基礎・基本の定着を図る。コンピュータによる指導、学校図書館の活用等新たな指導に取り組む。</p>	<p>・国語、数学、英語に関しては少人数やティームティーチングの授業を行う。</p> <p>・個別対応が必要な生徒については放課後学習等で補う。</p> <p>・学級経営を充実させ、落ち着いた雰囲気の中で学習意欲の向上を図る。</p>	<p>・小グループによる日常的な授業研修をとおして、日頃からの指導法の工夫、授業改善、他の授業から謙虚に学び合う。</p> <p>・人権尊重をテーマとした研修を深めることにより、人権に配慮した指導に努めるとともに生徒の人権意識を高める。</p> <p>・生徒からの授業評価を指導に生かす。</p>	<p>・年間指導計画、年間評価計画に基づき、系統性・発展性ある授業を展開するとともに、指導と評価の一体化を図り、より一層精度の高い評価・評定を実現する。</p>	<p>・規範意識確立のための「学校生活目標」、学習態度形成のための「学力向上5つの呼びかけ」を全家庭に周知し、振り返る機会をもつ。</p> <p>・学校評議員と定期的に会合をもち、地域からの声を反映し、授業改善に生かす。</p>

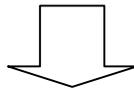
区学力調査の結果から見られる成果と課題				
国語	数学	英語	社会	理科
全体的に期待正答率を上回り、特に「書く」「読む」については、基礎・活用ともに高い値を示している。その中で、「話す・聞く」の領域のみ期待正答率をやや下回った。「聞く」能力については、意識的に向上させる必要がある。	全体的に平均正答率が期待正答率を上回っている。特に活用能力が期待正答率を大きく上回っている。今後、さらに基礎の定着を図ることに重点をおき、活用能力を伸ばしていくことが求められる。		すべての区分に置いて平均正答率が期待正答率を上回っている。Tスコア比較においてもすべて50を超えている。若干、基礎活用の活用分野が弱いようである。	基礎・活用ともに平均正答率は期待正答率を上回っている。観点別では、観察・実験の技能・表現の正答率は高めだが、自然現象への関心・意欲・態度はやや低くなっている。授業中に行う観察・実験と自然現象との関連を生徒に意識させる必要がある。



学力向上のためのポイント				
国語	数学	英語	社会	理科
少人数授業の利点を生かし、まず授業者の話をしっかり聞き取る習慣を、一人ひとりに確実に付けさせる。また、聞き取りテストを定期的に行い、生徒自身に課題を自覚させる。漢字の読み書きは、毎時間小学校の復習をすることで基礎を固める。	習熟度別授業のメリットを十分生かし、今後さらに、個に応じたきめ細かな指導に努める。また、小テストをこまめに行い、生徒の基礎学力の定着の度合いを把握する。言語活動を取り入れた授業展開を工夫し、基礎的な事柄の活用能力向上を目指す。	自ら進んで音読や会話をしようとする姿勢を身に付けさせる。また、ノートや課題を提出させ、基礎的な内容の定着を確認する。小テストを実施し、生徒が自身の課題を把握できるようにする。基礎力を充実させ、さらに自己表現力や会話表現力の充実に結び付ける。	基礎・基本の定着をさらに進めるとともに、レポート・新聞等の作成作業をとおして資料活用、思考・判断の力を養わせ、基礎活用の活用区分を高めさせたい。	身近な現象や材料を取り入れた観察・実験を自ら計画・実行してレポートにまとめる活動を継続して行い、自然現象から学ぶ態度を養うとともに、授業で扱う内容と関連する事象を広く紹介する。

区学力調査の結果（前年度第1学年と比較）等から見られる成果と課題

国語	数学	英語	社会	理科
基礎・基本事項の平均正答率が期待正答率を下回っており、昨年度と比較しても下がっている。継続的な指導が必要である。一方話す・聞く能力は伸びており、グループ発表、少人数での発言の重視等の成果が表れたと考えられる。	全体的に平均正答率が期待正答率を上回っているが、文字式の表し方、一次方程式の応用の領域では下回っている。実際に立体を作る等操作活動を取り入れたことにより、空間図形の領域では成果が表れた。今後文字式の活用能力を伸ばすことが課題である。	教科全体の平均正答率は、昨年と同様基礎・活用・総合ともに期待正答率を上回っている。特にリスニング力、読解力は安定してきているが、一方で「言語文化理解」「条件英作文」において下回っている。これは、文法理解や慣用表現等の語彙力の不十分さが課題である。	全ての区分で平均正答率が期待正答率を下回っている。また、昨年度と比較しても数値が下がっており、区分の活用、観点学習の関心・意欲が低い。度数分布も率の低いところが増えており、基礎・基本の定着を図り、関心を高めるための授業の工夫が必要である。	基礎・活用ともに平均正答率は期待正答率を下回っており、特に活用力に課題が見られる。領域では、身近な物理現象の正答率が低く、復習を行う必要がある。観点別では、観察・実験の技能・表現が低く、観察・実験内容を理解させた上で作業に入る必要がある。

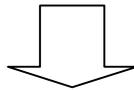


学力向上のためのポイント

国語	数学	英語	社会	理科
こまめなノート提出、授業内での漢字練習等、基礎的内容に根気強く取り組ませていく。その際、個々の生徒の課題をより明確に把握するようにする。生徒自身に学習への目的意識を持たせるため小テスト等を取り入れ、自己の努力の成果を自覚しながら次のステップへ向かうように指導していく。	少人数授業のメリットを十分生かし、個々の課題に応じたきめ細かい指導を行う。また、小テストを定期的に行い、生徒自身が基礎学力の定着の度合いを把握できるようにする。文字式の活用能力の向上にむけ、文字を用いて表現し、式の意味を読み取り計算する学習を総合的に行っていく。言語活動を取り入れた授業展開を工夫し、基礎的な事柄の活用能力向上を目指す。	基本文や新出単語の定着は、ノート指導や単元テスト等で把握し、それを活用させる演習を授業で定期的に行い、文法事項の着実な定着を図る。また、実践的場面での表現活動をとおして、英語特有の慣用表現を身に付けさせ、それが語彙力にも結びついているかを確認する小テストも定期的に行い、習熟度を把握する。	関心が高まるよう身近な事象を題材として考える学習を取り入れていく。また、班活動・新聞作成等をとおして資料活用・表現の力を養う。1年生の学習を2年生で学習している内容と比較等により振り返り、基礎・基本が定着するようにする。	身近な現象や材料を取り入れた観察・実験を自ら計画・実行してレポートにまとめる活動を継続しながら、生徒一人ひとりの基礎的知識の理解や実験等を行う。目的等の理解について事前に確認するテストを実施する。1年生の内容を重点的に復習する時間を設定する。

区学力調査の結果（前年度第2学年と比較）等から見られる成果と課題

国語	数学	英語	社会	理科
全体的に平均正答率が期待正答率を上回った。特に基礎は昨年度下回っていたが、少人数授業でのきめ細かな指導の成果が表れた。一方活用する力の向上に意識的に取り組むこと、言語事項についての知識の定着に課題が見られた。	全体的に平均正答率が期待正答率を上回っているが、確率・関数の領域では、下回っている。少人数指導や数学的活動を重視し、授業を行ってきたが、より一層の少人数指導と授業展開の工夫が必要とされる。	全体的に平均正答率が期待正答率を上回っているが、昨年との比較では多くの領域で数値が下回っている。読解力や表現力を向上させる必要がある。また、正答率が低い生徒に向けて、基礎的な知識を定着させ、理解力を向上させることが求められる。	正答率・達成率の昨年との比較では全て数値が上回っている。しかし、今年度の活用、関心意欲の平均正答率は期待正答率を下回っている。より関心が高められるような取り組みが必要である。	基礎・活用ともに平均正答率を下回っている。観点別では、観察・実験の技能・表現の改善は進んだが、科学的な思考力と自然現象についての知識・理解は改善できなかった。また、基礎的な内容の知識・理解を重視した取り組みが必要な生徒もいる。



学力向上のためのポイント

国語	数学	英語	社会	理科
言語事項の知識定着のために授業内で漢字練習等の時間を毎回確保すると同時に、放課後の学習教室の個別指導を活用していく。また单元ごとの問題演習を行い、長文読解力を向上させる。書く領域では、二百字、四百字、六百字の課題作文演習を行う。	数学的活動と言語活動を取り入れた授業展開を工夫して行う。習熟度別少人数指導を試験前に行うことで、生徒の学習の定着が十分な箇所をなくすようにする。また、計算テスト等をこまめに行い、基礎学力の徹底を図る。その際、躓きが見られる生徒には放課後の学習教室の参加を促し、学力の向上を目指す。	基礎的な知識を理解させるために年間を通じ、1・2年生の内容を復習させる。基礎・基本の定着を目指して、ノートや課題をこまめに提出させるとともに、单元ごとに小テストを実施する。また、一行日記を書くことに継続的に取り組ませる等して、表現力の向上を目指す。	公民で現代の事象を取り上げながら考え、学習への関心を高める。また、班活動での意見交換をとおして思考・判断さらには表現の力を養う。定期考査等により1・2年次を振り返り学習を進めるようにしていく。	レポートの提出回数を増やして、観察・実験計画づくりや提出前のまとめ方について個別の指導を継続する。さらに、基礎的な内容の知識・理解の定着を目指して、单元や内容ごとに小テストを実施するとともに、重点的に復習を行う時間を設定する。